

## 第 51 回 三崎漁港から油壺

第 5 支部 東邦化成(株)

磯部 進

平成 23 年 4 月 10 日 曇りのち晴れ

4 月 10 日午前 8 時 54 分、京浜急行の特急に乗っていた私は乾さんからの電話に呼び出されました。「磯部さん、今どこですか?」「遅刻ですよ。」「理事長だから 3 万円ですよ。」と言いたい放題でした。私は集合時間の 9 時 15 分に余裕の 8 時 59 分に着く特急に乗った積もりでしたが、なんと当初の案内をプリントしてしまったため、その後変わった集合時間を見落としていたのです。集合時間が変わったのを、他の参加者は全員ご存知のため、今更言い訳を言っても仕方ありません。素直に罰金 1 万円を払う決心をしました。

日 時：2011 年 (H23) 4 月 10 日 (日)

目的地：ホテル京急油壺「観潮荘」

歩 程：2 時間

うす曇りの三崎口駅に集合したのは 11 名でした。今回は濱田さんの企画で、初参加のオーウェルOBの加藤氏を紹介していただきました。氏は三崎に詳しく、ガイド役をしていただきました。他に石倉さん、小川氏、森氏、森山氏、宮本氏、山本事務局長、若林氏、乾幹事そして磯部の参加です。原夫妻は早朝、どたばたがあり、昼からの参加となりました。

三崎口よりバスに乗り、三崎港バス停で下車、集合写真を撮影した後、9 時 18 分に出発、海南神社に向かいました。ゆるい登りを約 4 分で到着しました。海南神社は相模の国、三浦の総鎮守で、祭神は藤原資盈(ふじわらのすけみつ)うんぬん。。。とある由緒ある神社でした。藤原資盈は清和天皇の時代に皇位継承問題に絡み左遷され、筑紫の国に赴任する途中に暴風によって、この地に漂着、長となり海賊を平定した人物であるとのことでした。拝殿の鈴紐が何本も垂れ下がるところが他の神社との違いかと思いました。

参拝の後、三崎港の「うらり」という産直センターに立ち寄りしました。濱田氏によると土産物はここでしか買えないとのこと。これからハイキングというところでの土産物の購入は、皆さん気が進まないようでしたが、若林氏のみ、ドライアイスがたくさん入れて貰い、冷凍のマグロのカマを買い込んでいました。

続いて歌舞島公園を目指しました。歌舞島の名の由来は、この地で源頼朝が歌舞の宴を開いたことによるそうです。北原白秋の和歌の碑があり、「いつしかに 春

の名残し なりにけり 昆布干場の たんぼぼの花」とありました。海側はかなり先まで埋め立てが進み、まるで風情の無い場所となっていました。先を急ぐ我々は公園には寄らず、歌舞島公園バス停を抜け、諸磯湾に向かいました。

湾に沿って道を進み、広い舗装の坂道を登ると、諸磯湾に出るバス通りに出ます。今度はゆるい坂道を下り、諸磯湾の入り口のバス停に出ました。バス停の先に海へと続く道があり、磯に出ます。丁度、対岸の油壺が良く見え、ボートで渡れると楽ですねと話していました。ここで恒例のお茶会を始めようと思いましたが、宴会開始まで1時間程しかないとのことで、何もせずに先を目指すことになりました。

お茶会のために、約2Lの水を持って移動している私は何なんだと思いつつも、仕方なく先を急いだのでした。さき程のバス停を過ぎたところで、クーポン券を購入している宮本氏、森山氏、若林氏のお三方は丁度やって来たバスに乗り、登り坂をパスして行きました。

続いて、油壺湾のマリーナの横を抜け、この日一番の急な上り坂をこなすと、桜の見事な油壺の広い駐車場に出ます。立派な公衆トイレで用を足した後、マリンパークへ向かう広い道を斜め左に逸れ、三浦一族終焉の地である新井城を抜け、荒井浜に下ります。この頃には青空も出て来ましたが、もうすぐ到着です。歩き難い砂浜に足をとられながら、半島の先端の海岸をぐるっと右に回り込み、坂を登り切り、広い駐車場を横切ったところに、最終目的地のホテル京急油壺「観潮荘」がありました。

オーシャンビューの大広間に用意された昼食を横目に、早速入浴しました。お風呂はこれまたオーシャンビューの露天風呂も備えた快適な塩分豊かな温泉でした。シャワーで塩分をしっかりと落として、さっぱりした体で宴会が始まりました。広い宴会場の真ん中寄りに、こじんまりと設けられた宴席で、向かい合わせの距離が広くて話が遠い割にはアルコールが進み、予定の2時頃にホテルのバスで三崎口駅まで送って貰いました。

帰りの電車でも、いつものように一杯やりながら事故も無く？忘れ物も無く？元気に途中途中で乗換えのため、三々五々帰って行きました。